

事例研究報告

中学部生徒が自分から活動に 取り組むための指導

生徒の実態

- 知的障がい、自閉症がある中学部生徒。
- 授業中、指を吸ったり唾液で遊んだりすることが多く見られる。
- 指を吸ったり唾液で遊んだりすることが多い為、爪が溶け、指にたこができています。
- 指を吸ったり唾液で遊んだりし始めると、自分の世界に入ってしまうことが多く、教員が身体的支援をして、活動に取り組んでいる。

保護者の願い

「指を吸ったり唾液で遊んだりする行動が減少してほしい」

周囲の人に不快感を与えていないか、いつも不安である。



教員の願い

「対象生徒が自分から活動に取り組める場面が、増えてほしい」

アドバイザーからの助言

①対象生徒が、自信をもち活動できる環境を作ろう！

「できているよ」ということが分かるように伝えることが大切。
「できた」というフィードバックが必要。

②活動の内容を工夫しよう！

やることがないと、指を吸ったり唾液で遊んだりするのは、自然な行動。使用する機器を検討したり、簡単にできる活動を取り入れたりする。学ぶパターンを決め、新しいことを取り入れる時は、同じパターンで練習するのも効果的。

助言を受けての見直し①

対象生徒が、自信をもち活動できる環境を作ろう！

<助言前>

- ・対象生徒の活動全体が終わってから、褒める。
→対象生徒が、自分の活動が正しくできているのか分かりづらい。失敗をした時だけ、すぐに教員から修正が入る為、自分から自信をもって活動することができなかった。

<助言後>

- ・動作や活動が1つ終わる毎に、「できた」ということをフィードバックする。
- ・対象生徒が褒められたことが分かりやすいように、担任3人で、褒める言葉を「OK」に統一する。

助言を受けての見直し②

活動の内容を工夫しよう！

<助言前>

- ・活動の内容が難しかったり，活動することがない状態が多い。
→ボイスレコーダーを使用して朝の会の司会をする，座って教員の話聞く，友だちの活動を見る等。

<助言後>

- ・活動の内容に，対象生徒ができることを，負担にならない範囲で増やす。
→カレンダーめくり，カードを使った活動等。

指導の手続き

・指導場面：朝の会

【介入】

・対象生徒の活動項目

- ①進行内容を示したカードを，順番ボードから剥がす。
- ②日付・天気発表の時に，日めくりカレンダーを破り，ゴミ箱に捨てる。
- ③時間割発表の時に，時間割カードを教員に手渡しする。
- ④給食発表の時に，当日の主食の写真カード(パンかご飯の写真)を教員に手渡しする。

・対象生徒の動作や活動が1つ終わる毎に，「OK」の言葉で褒める。

記録方法と記録①

- ・項目②～④の時に、教員が褒めた回数を記録した。
- ・項目②～④における、対象生徒の取り組み状況を「○、△、P、指、身」で記録した。

○…自分から活動に取り組めた

△…言葉かけ

P…プロンプト

指…指さし

身…身体的支援

} 支援を受けて活動した

- ・朝の会全体における、対象生徒の指吸い度合いを1～4段階で評価し、記録した。

1…ほとんど吸っていない

2…吸っている時間が半分以下

3…吸っている時間が半分以上

4…ほとんど吸っている

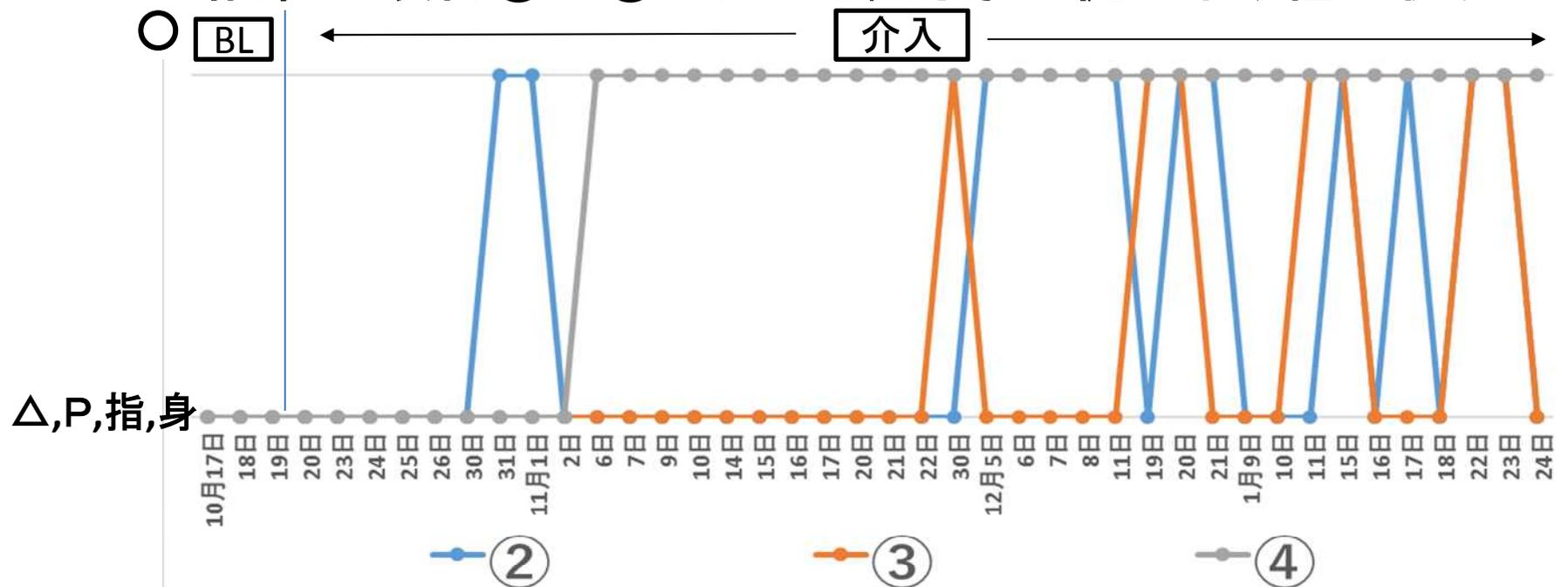
記録方法と記録②

日付	活動の取り組み状況			教員が褒めた回数			指吸い
	カレンダー (項目②)	時間割 (項目③)	給食 (項目④)	カレンダー (項目②)	時間割 (項目③)	給食 (項目④)	
○月○日	△・身	指・△・P	指・△・P	1	0	1	2
○日	身	P	指・△・P	0	0	0	3
○日	指・△・身	P	△・P	1	0	1	3
○日							
○日							

⋮

指導の成果①

結果1: 項目②～④における, 対象生徒の取り組み状況



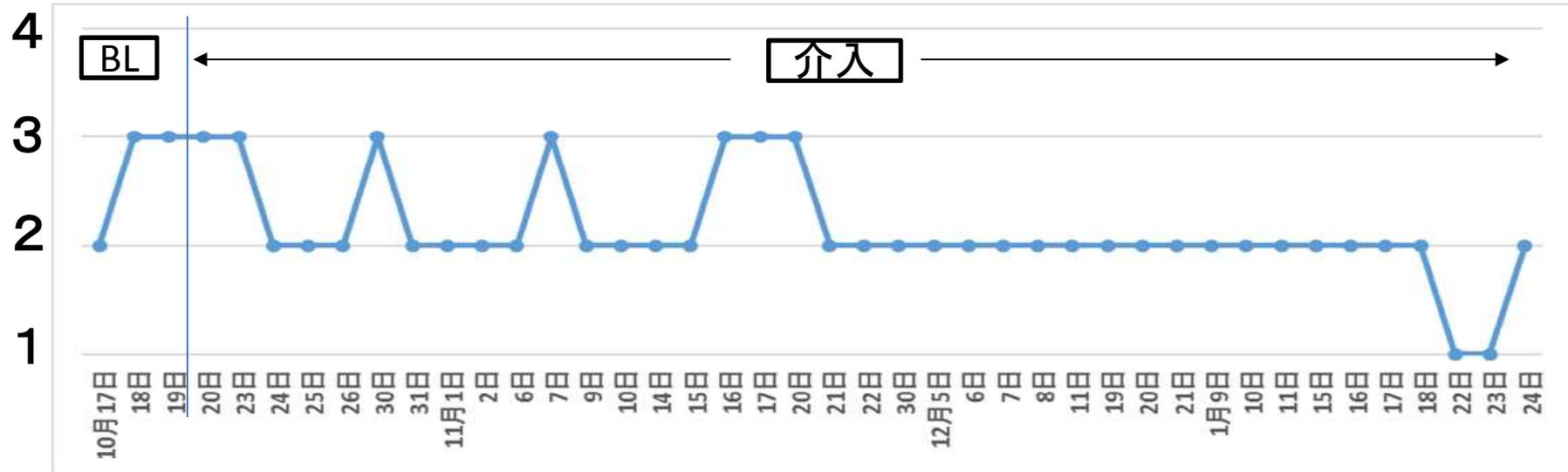
○・・・自分から活動に取り組めた

△, P, 指, 身・・・支援を受けて活動した(言葉かけ, プロンプト, 指さし, 身体的支援)

- ・介入として, 動作や活動が1つ終わる毎に「OK」の言葉で褒めたことにより, 対象生徒が, 自分から活動に取り組む場面が増えた。

指導の成果②

結果2:朝の会全体における,対象生徒の指吸い度合い



- 1...ほとんど吸っていない
- 2...吸っている時間が半分以下
- 3...吸っている時間が半分以上
- 4...ほとんど吸っている

- 対象生徒が自分から活動に取り組む場面が増えるにつれ,指を吸う度合いが減少した。

ここが成功のポイント

- 指を吸ったり唾液で遊んだりする行動を、止めさせようとするより、対象生徒が、自分から活動に取り組む場面を増やすことに着目し、指導したこと。
- 対象生徒が、自分の活動に自信をもつことができるよう、担任が共通理解を図って、褒める回数を増やしたこと。
- 活動の内容で、対象生徒ができることを増やす為に、教材の工夫や学習内容の再考を、担任間で話し合ったこと。